

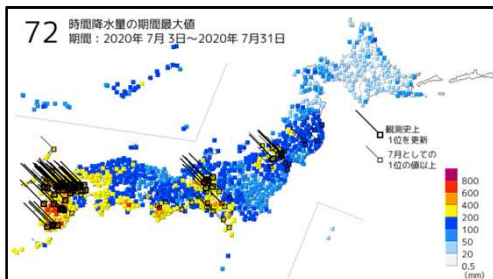
令和2年7月豪雨

◆非常に活発な梅雨前線の影響により、西日本や東日本で大雨となり、九州地方では記録的な大雨となりました。

◆概要

■7月3日から8日にかけて、梅雨前線が華中から九州付近を通って東日本にのびてほとんど停滞した。前線の活動が非常に活発で、西日本や東日本で大雨となり、特に九州では4日から7日は記録的な大雨となった。また、岐阜県周辺では6日から激しい雨が断続的に降り、7日から8日にかけて記録的な大雨となった。

■7月3日から7月31日までの総降水量は、長野県や高知県の多い所で2,000ミリを超えたところがあり、九州南部、九州北部地方、東海地方、及び東北地方の多くの地点で、24、48、72時間降水量が観測史上1位の値を超えた。



72 時間降水量の期間最大値の分布図
(7月3日0時～7月31日24時)
(出典：気象庁HP)



◆一般被害（令和3年1月7日時点）

※内閣府HP「令和2年7月豪雨による被害状況等について」から抜粋

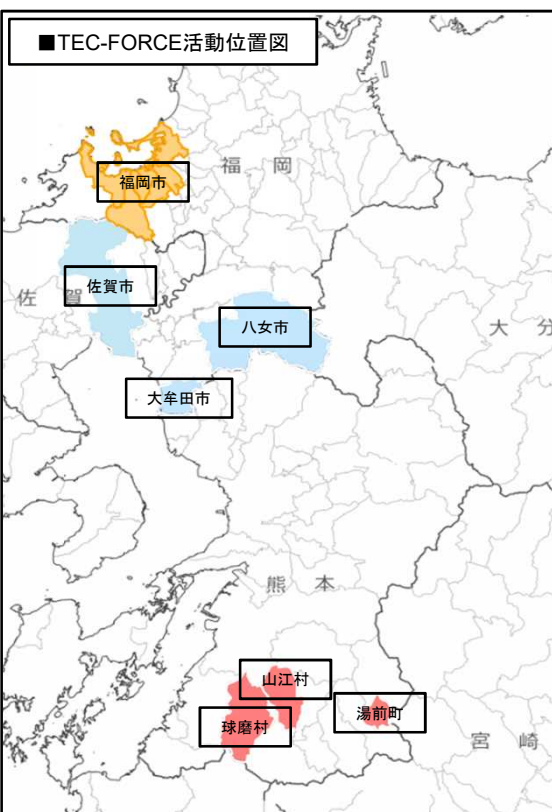
- 死者 84名（熊本県65名 他）
- 行方不明者 2名（熊本県2名）
- 負傷者 77名（熊本県44名 他）
- 家屋全壊 1,621棟（熊本県1,490棟 他）
- 家屋半壊 4,504棟（熊本県3,092棟 他）
- 床上浸水 1,681棟（福岡県681棟 他）
- 床下浸水 5,290棟（福岡県1,920棟 他）



熊本県人吉市街部における浸水状況(7月4日)

北陸地方整備局の支援状況

◆被災状況調査(砂防・道路)、応急対策(排水)のためTEC-FORCEを13班(のべ322人)派遣しました。



熊本県湯前町 被災状況調査班（砂防）



熊本県山江村 被災状況調査班（砂防）



熊本県山江村 被災状況調査班（道路）



福岡県大牟田市 応急対策班（排水）